



ごあいさつ

東京都知事 小池 百合子

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会と東京都の共催により、第27回東京都障害者スポーツ大会を盛大に開催できますことを嬉しく思います。

この大会は「身体」「知的」「精神」の3つの部門で競技を行う、都内最大規模のパラスポーツの祭典です。スポーツを通じて、障害のある方々の体力の維持増進、社会への参加、相互交流を図り、自立促進とスポーツ振興につなげていくことを目的としています。

選手の皆様、日頃の練習の成果を発揮して、10月に青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障スポ」への出場を目指すなど、それぞれの目標に向かって大いに挑戦してください。そして、大会出場を契機に、選手の皆様が活躍の場を広げるとともに、他の選手と大いに交流し、競技生活をより豊かなものとされていくことを願っています。

東京で昨年開催されたデフリンピックは、多くの人にスポーツの喜びや楽しさを届け、スポーツが持つ無限の力をあらためて示すとともに、東京2020大会や世界陸上を通じて実現を目指してきた共生社会の一つの姿を見せてくれました。

今年は、東京2020パラリンピック競技大会から5周年の節目です。障害の有無に関わらず楽しく交流できる取組を展開し、全ての「人」を輝かせるインクルーシブの理念を、国際スポーツ大会の開催を通じて創出されたレガシーとして、東京にしっかりと根付かせてまいります。

本大会の開催にご尽力くださった関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。大会の成功が、パラスポーツの一層の発展と誰もが心豊かに生き生きと暮らせる社会の実現につながることを祈念し、ご挨拶いたします。



ご挨拶

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
会長 延興 桂

第27回東京都障害者スポーツ大会が、関係者の皆様のご協力とご理解のもとで開催されますことに、主催者の一人として心から感謝申し上げます。

本大会は、10月に開催されます第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障スポ」への派遣選手選考会を兼ねており、毎年多数の選手が参加する都内最大の障害者スポーツ大会です。

この大会は「身体」、「知的」「精神」の3部門で行われます。選手の皆様におかれましては、日頃の練習の成果を思う存分発揮して、大いに大会を楽しんでいただければと存じます。また、この大会を契機に他の選手との交流を深め、共に高め合う仲間をぜひ増やしていただければ幸いです。

スポーツは、健康の維持・増進や人生に潤いを与える世界共通の人類の文化です。昨年はここ東京でデフリンピックが開催され、連日大盛況の会場でトップアスリートのパフォーマンスが繰り広げられ、聴覚障害に対する社会の理解向上に大きく寄与しました。

その熱気を絶やすことなく当協会は、東京の障害者スポーツ振興の中核組織として、障害のある人が「いつでも どこでも いつまでも ～すすめます！スポーツをもっと身近に～」をスローガンに、障害の有無や種別を問わず誰もがスポーツを楽しむことのできる、スポーツを通じた共生社会の実現に向け、東京都と一体となって引き続き様々な取組を行ってまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、本大会のために多大なご支援をくださいました多くの方々に、心より感謝申し上げますとともに、重ねて選手の皆様のご健闘を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ

特別区長会会長
新宿区長 吉住 健一

第27回東京都障害者スポーツ大会の開催を心からお慶び申し上げます。

この大会は、多くのパラアスリートが参加する、国内最大規模を誇る「パラスポーツの祭典」であります。今回で第27回目を迎える本大会は、さまざまな障害を乗り越えて活躍されている選手だけでなく、ボランティアの皆さんも含めた多くの関係者が集い、年々大きな輪となっております。

本大会の開会式が東京を代表するスポーツ大会として伝統のある「東京都スポーツ大会」と合同で開催されることは、障害のある人とない人がお互いのスポーツ競技への理解をより一層深めることにつながり、すべての人がスポーツのもとで、ひとつの大輪となり発展していく象徴だと思っております。

本年3月には、ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会が開催されました。1976年にスウェーデンで最初の冬季パラリンピックが行われてから50周年を迎える今大会は、世界各国から過去最多の選手が参加したほか、日本のこれまでの通算メダル獲得数が100個を超える節目の大会となりました。日本人選手の活躍はもちろんのこと、世界中のアスリートたちが懸命に汗を流し競技する姿と笑顔、そしてそれを支える多くの人たちの惜しみない協力は、私たちに大きな感動を与えてくれました。

特別区は今後とも、障害のある方々が、住みなれた地域で安心して自分らしく暮らしていくことができるように、障害者スポーツの振興を含めた障害者施策の充実に努め、誰もが幸せを実感できる共生の地域社会の実現を目指してまいります。

どうか皆様もスポーツを通して友情と交流を育まれ、連帯と支え合いの輪を地域に広げていただくことをご期待申し上げます。

本大会に向けて鍛錬を積んできた選手、大会運営にあたっているスタッフの皆さん、そして諸団体、ボランティアの皆さんのご努力とご協力に深く敬意を表すとともに、大会の成功と皆様のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



第27回東京都障害者スポーツ大会開催を祝して

東京都市長会会長

福生市長 加藤 育 男

「第27回東京都障害者スポーツ大会」が多くの皆様のご参加により、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本大会は、選手の皆様が、日頃積み重ねてきた練習の成果を発揮するとともに、競技を通じて多くの人々と交流の輪を広げる大きな機会であります。

都内最大規模となるパラスポーツの祭典が例年開催されておりますのも、出場される選手の皆様だけではなく、大会スタッフ、ボランティア、選手を応援する方々など、関係者全員の熱い思いによるものだと感じております。

大会で、選手の方々が真剣勝負を繰り広げる姿は、多くの人々に感動と勇気を与え、人々の心を揺さぶり、障害者スポーツの魅力をあますことなく伝えてくれるものと思います。

昨年の11月には、日本で初めてのデフリンピックとなる東京2025デフリンピックが開催され、79の国と地域から史上最大規模となる約2,800名の選手が出場し、約33万人もの方々が会場で観戦されるなか、日本のメダル獲得数が過去最高の51個となるなど、大変な盛り上がりを見せました。

また、本年は、ミラノ・コルティナ2026冬季パラリンピックも開催されました。こうした様々な大会を通じて、障害者スポーツに対する関心が大きく高まることで、スポーツを通じた社会参加、相互交流がさらに進むとともに、障害者スポーツの更なる発展につながることを確信しております。

東京都市長会といたしましても、活力あふれる共生社会の実現に向けて、障害者福祉のより一層の増進に努めるとともに、障害がある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりに向けて、全力で取り組んで参ります。

結びに、本大会を運営されるスタッフ、ボランティアの皆様のご尽力に対し、深く敬意を表しますとともに、選手の皆様のご活躍と本大会の成功を心からお祈りいたしまして、ご挨拶の言葉といたします。



ご挨拶

東京都町村会会長

奥多摩町長 師岡伸公

第27回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

今年3月に開催された「ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会」は、世界中の人々に多くの感動を与えてくれました。そして、9月に名古屋で開催される「第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会」は、パラリンピックに勝るとも劣らぬ感動に満ちた大会となることを期待しているところです。

パラアスリートが日々鍛錬を重ね、晴れの大舞台でハンデをものともせず持てる力を出し切る姿は、見る人の心を揺り動かすとともに、私たちに勇気と希望を与えてくれます。こうした機会を通じて、障害者スポーツの認知度が高まり、より身近な存在となっていくことにより、障害のある人もない人も共に競技を楽しむ環境が整っていくのだと思います。

本大会は、第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めき あおもり障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねています。選手の皆様には、日々の努力に裏打ちされた実力を遺憾なく発揮し、更なる高みを目指していただきたいと思います。そして、その姿を通じて、西多摩地域や島しょ地域を含む都内全域に障害者スポーツの魅力を伝えていただきたいと思います。

東京都町村会は、障害者スポーツのより一層の振興とともに、障害のある方々が住み慣れた地域で安心して生活できる地域社会の確立、誰もが幸せを実感できる共生社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました多くの関係者やボランティアの皆様へ深く感謝申し上げますとともに、大会の成功と選手の皆様のご活躍を心からお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。



第27回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

公益社団法人東京都身体障害者団体連合会
会 長 三 宅 裕

「第27回東京都障害者スポーツ大会」が多くの方々の参加を得て、開催されますことを心よりお慶び申し上げます。世界中で戦争や紛争が続いている現状です。日本でも、災害等がおきている中で障害当事者は弱い立場にありますが、それ故に日々の何気ない日常生活の大切さが痛感されます。

ご出場される選手の皆様、ご本人の日々の研鑽は言うに及びませんが、ご家族等の支えがあつてこそだと思います。

また、直接、スポーツをすることが出来なくても観戦し、心から応援するのも「スポーツ」のひとつのあり方だと思います。

障害者がスポーツに親しむ原動力は、各々が自立と社会参加、共生社会の方向性を国内外に示す重要な意味があると思います。

今大会へ出場される選手の皆様、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、本年10月23日から青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障スポ」に東京都代表として出場することを目指して、頑張っていたいただきたいと思います。私達も応援しております。

そして、目標を高く持ち、その先にあるものを目指して、選手として出場することへの希望を繋げてください。

また、東京都障害者総合スポーツセンター並びに東京都多摩障害者スポーツセンターを活用され、多くの方々との「ふれあい」を大切に、コミュニケーションを広げてください。

末筆になりますが、大会の準備等に、ご尽力をいただきました大会関係者及びボランティアの皆様心より敬意を表し、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の益々のご発展と大会の成功をお祈り申し上げまして、挨拶いたします。



第27回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
理事長 立原 麻里子

「第27回東京都障害者スポーツ大会」が、多くの方々のご参加と、関係者の皆様のご支援ご協力のもとに、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

今年も各競技にさきがけて、第79回東京都スポーツ大会との合同開会式が開催されます。障害のある人もない人も、日々鍛錬し、競技に全力を尽くしています。誰もが一人の都民として参加するこの合同開会式は、東京体育館のメインアリーナを、共生社会を象徴する場所にしていくのではないかと考えています。

また、この大会は第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めき あおもり障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねています。日頃の練習の成果を発揮して、東京都を代表して青森県での全国大会に参加できるよう、持てる力を思い切り発揮してください。

とはいえ、代表に選ばれることがすべてではありません。選手の皆さんがスポーツに真剣に打ち込む姿や、スポーツを楽しむ姿に、多くの人が勇気や元気をもらえることと思います。結果も大切ですが、ここに至るプロセスを誇りにして、楽しみながら参加していただけたらうれしいです。

昨年は東京でデフリンピックが開催され、大変な盛り上がりを見せました。今年はミラノ・コルティナで冬季パラリンピックが開催され、障害者スポーツへの関心がさらに高まっていると感じています。また、10月にはアジアパラ競技大会が名古屋市で開催されます。世界中で多くの障害のある人がスポーツに取り組んでいることを皆が知ることが、共生社会の実現につながっていくことに期待しています。皆で観戦し応援して、さらに障害者スポーツを盛り上げていきましょう。

結びにあたりまして、この大会を支えてくださっている大会関係者やボランティアのみなさまに心からの感謝を申し上げ、参加される選手のみなさまのご活躍をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。



第27回東京都障害者スポーツ大会

ライオンズクラブ国際協会330-A地区
ガバナー 上野 繁 幸

第27回東京都障害者スポーツ大会の開催にあたり、ライオンズクラブ国際協会330-A地区を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。また、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の皆様におかれましては、日頃よりスポーツの振興を通じ、共生社会の実現に向けて多大なるご尽力を賜っておりますことに、深く敬意と感謝の意を表します。

本大会は例年同様、令和8年度に開催される「第25回全国障害者スポーツ大会（青の煌めき あおもり障スポ）」の東京都代表選手選考会を兼ねた、極めて重要な意義を有する大会であります。選手の皆様におかれましては、この日のために積み重ねてこられた弛まぬ努力の成果を遺憾なく発揮され、それぞれの目標に向かって全力で競技に臨まれることと存じます。その真摯な姿勢と挑戦する心は、多くの人々に勇気と希望、そして大きな感動をもたらし、社会全体を明るく照らす力となるものであります。

さらに本年も、「第79回東京都スポーツ大会」との合同開会式が行われると伺っております。障害の有無にかかわらず多くのアスリートが一堂に会し、スポーツの喜びを分かち合う姿は、ライオンズクラブ国際協会330-A地区が掲げるスローガン「心をついに ALL TOKYO」にも通じるものがあり、まさに私たちが目指す社会の縮図であると感じております。

選手の皆様には、勝利を目指すとともに、互いを尊重し、称え合い、支え合う精神を大切にしながら競技に臨んでいただきたいと存じます。スポーツが生み出す情熱と絆が、共生社会の実現に向けた確かな一歩となることを切に願っております。

私どもライオンズクラブも、「We Serve」の精神のもと、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、今後も地域に根ざした奉仕活動に邁進してまいります。

結びに、本大会のご成功と、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の益々のご発展、並びにご参集の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、激励の言葉とさせていただきます。



ごあいさつ

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
理事長 塩見清仁

第27回東京都障害者スポーツ大会が、多くの関係者の方々の御協力を得て開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本大会は、本年10月に青森県で開催が予定されている、第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障スポ」の東京都代表選手選考会を兼ねた都内最大規模の障害者スポーツの祭典で、全国大会出場という大きな目標につながる大会でもあります。また、当事業団が管理運営しております東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場及び東京アクアティクスセンターでも競技が実施されます。皆様が練習の成果を遺憾なく発揮され、熱戦が繰り広げられることを心から楽しみにしています。

さて、本年は愛知・名古屋においてアジア最大の障害者スポーツの祭典であるアジアパラ競技大会が開催されます。この大会は、日本で初めて開催される歴史的な舞台であり、アジア中のトップパラアスリートが集い、熱戦を繰り広げます。パラスポーツの存在感がますます高まる中、本大会がパラスポーツの競技力向上と更なる理解・普及促進の契機となることを期待しております。

当事業団は、本大会の成功はもとより、「スポーツフィールド・東京」の実現に向けた様々な取組に積極的に参画して参ります。その取組のひとつとして、都立の特別支援学校を障害者スポーツの拠点として活用する「都立特別支援学校活用促進事業」は、対象校を拡大して今年度も引き続き実施いたします。都民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、これまで以上に障害者スポーツの振興に寄与して参りたいと考えております。

結びに、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会並びに本大会実行委員会の皆様方の御尽力に敬意を表しますとともに、大会の成功と選手の皆さんの御健闘をお祈り申し上げます。



ごあいさつ

一般財団法人 東京都弘済会
理事長 石原清次

第27回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、この大会は、障害のある方々がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会参加と相互交流の促進並びに都民の障害者に対する理解の増進を図ることで、障害者の自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的として開催されています。

昨年は、100周年の記念すべきデフリンピックとして、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025が、11月15日～11月26日(12日間)に、日本で初めて開催されました。この大会で、日本代表選手団は、金16個、銀12個、銅23個のメダルを獲得し、日本中が感動につつまれました。

また、今年は、ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会が3月に開催されたほか、愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会が10月に開催されるなど、障害者スポーツに対する関心が深まっています。

第27回東京都障害者スポーツ大会が、選手や関係者の皆さまの日ごろの努力の成果がいかに発揮され、輝かしい結果をあげ、広く都民に感動を与えていただけることを心から願っております。

一般財団法人東京都弘済会では、障害のある方々などに対する福祉事業等を多数実施しております。障害者のための「ふれあいコンサート」に協賛するとともに、病院、障害者施設等に出向き小編成の音楽演奏会を開催するほか、障害者等の心身の健康増進や地域交流を図るため、障害者施設等で出前演芸会を開催しています。また、在宅介護者交流日帰りバス旅行なども企画しておりますので、ぜひお越しいただきたいと思っております。

最後に、あらためて、本大会の運営にあたるスタッフの方々、関係団体及びボランティアの皆さまのご尽力に敬意を表するとともに、本大会に参加されるアスリートの皆さまのご健闘を心より祈念しまして、あいさつとさせていただきます。



ご挨拶

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
会長 川澄俊文

第27回東京都障害者スポーツ大会が多くの皆さまの参加のもと、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

近年、障害者スポーツは大きな広がりを見せています。パリパラリンピックでは、世界中の選手たちが限界に挑み、そのひたむきな姿が多くの人々に勇気と感動を与えました。

さらに、2025年、東京都を中心に開催されたデフリンピックにおいては、聴覚障害のある選手たちが、視覚的な合図や手話など多様なコミュニケーションを用いながら競技に臨み、その高度な技術と集中力が大きな注目を集めました。この大会は、競技力の高さだけでなく、互いの違いを尊重し合う社会のあり方を広く発信する機会ともなり、障害者スポーツの意義を改めて示すものとなりました。

こうした流れの中で、障害者スポーツは、単なる競技の枠を超え、一人ひとりの可能性を広げ、共生社会の実現を後押しする重要な役割を担っています。

さて、私ども、東京都社会福祉協議会では、『東京らしい多様性を活かした地域共生社会』をビジョンとした中期計画による取り組みをすすめているところです。関係するさまざまな方々との幅広い協働により、誰もが自分らしく暮らし・支え合う地域共生社会を目指しています。そうしたなか、地域住民がつながり合い、障害のある人もない人も共に理解し合うための取り組みとして、区市町村社会福祉協議会や社会福祉法人による地域公益活動などにおいて、ボッチャをはじめとしたパラスポーツを活用する事例が増えています。地域共生社会の実現に向け、多くの関係者が手を携え、協働していくことが求められています。本会においても、関係者の皆さまと連携しながら、障害のある方々の社会参加と地域におけるスポーツ活動を支援していく所存です。

最後になりましたが、あらためて第27回東京都障害者スポーツ大会のご成功を祈念いたしますとともに、参加される選手はもとより大会の実施や運営にかかわる関係者、また、東京都障害者スポーツ協会の皆さまのますますのご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。